

月と金星の満ち欠け

1 はじめに

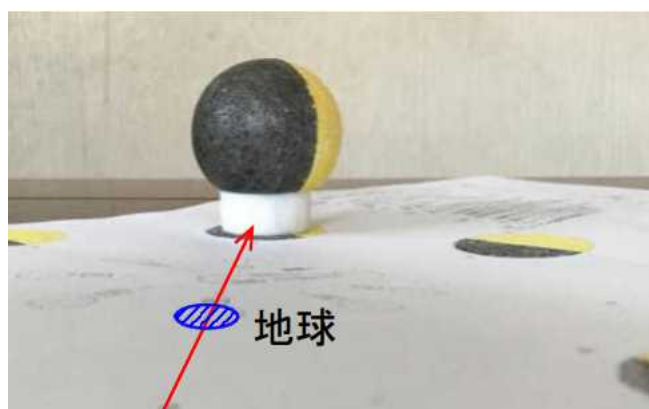
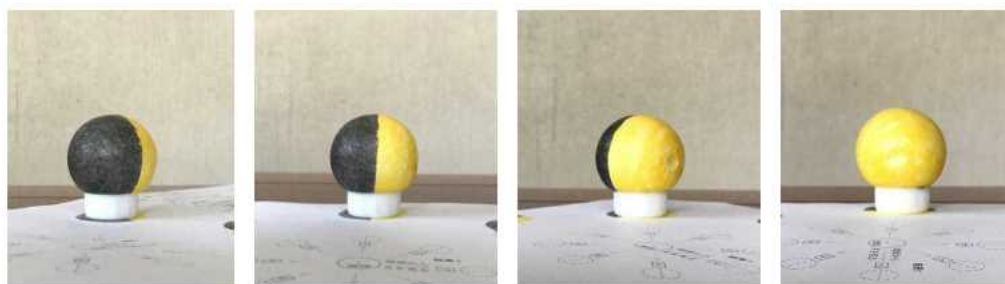
金星の満ち欠けを理解するには、月の満ち欠けの理解が不可欠です。月・金星の満ち欠けの理解を助けるために、一人一個ずつ月模型を使うことを提案します。

同僚が月の満ち欠けにかかわる面白い課題を作っていました。国語科で学習した和歌を使って月の満ち欠けの理解を深めるというものです。本人の了解を得ましたので紹介します。

2 一人一個ずつの月模型

月や金星の満ち欠けを理解するには、一人一個ずつ月模型があると良いです。

「小学校6年生 月と太陽」の実践で使用した月模型を使うことを提案します。これは、百円ショップで購入した発泡スチロール球とペットボトルキャップで簡単に作ることができます。



3 月の満ち欠けの理解を深める学習課題

(1) 学習課題

国語科ですでに学習した和歌を使って、月の満ち欠けについて理解を深めます。

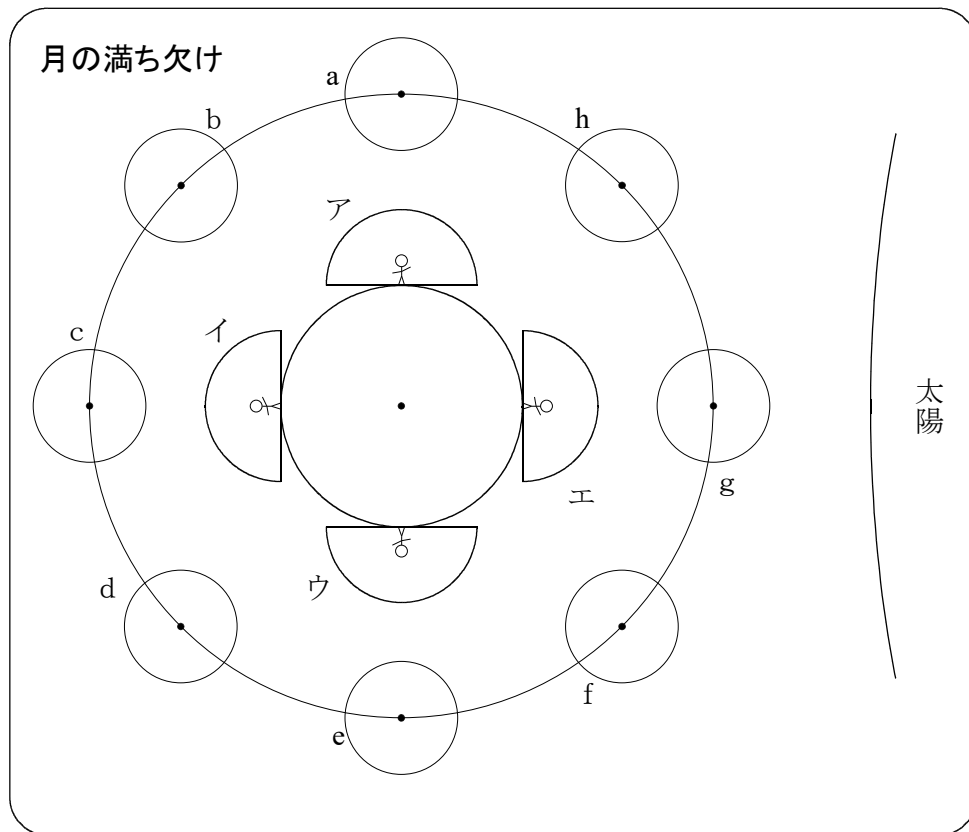
課題	ひむがし の 東の野に かぎろひ立つ見えて かえり見すれば、つきかたが 月傾きぬ かぎろひ…地平線から、うすぼんやり見える太陽の光 月傾きね…月が沈んでいった	かきのもとひとまる 柿本人麿
----	---	----------------

柿本人麿は何時頃の情景を詠んだのでしょうか。月はどんな形だったのでしょうか。

柿本人麿は、図のa～hのうち、どの月を見たのでしょうか。

その時、地球上のア～エのどの位置にいたのでしょうか。

(図は次頁)



(2) 学習課題の答え

東の野にかざろひ立つ見えて：東の地平線から太陽の光が見える
 かえり見すれば、月傾きぬ：振り返ってみれば、つまり西の空に、月が沈んでいく

太陽は東にあり、太陽はこれから昇ってくる。すなわち、今は朝。
 東の空に太陽、西の空に月である(月は太陽と反対側にある)ことから、ほぼ満月である。
 満月の位置は図の「c」である。朝の位置は図の「ウ」である。
 柿本人麿は、月が「c」にきたとき、地球上の「ウ」の位置で、この歌を詠んだ。

4 おわりに

柿本人麿の歌は、1学期に国語科で学んだと聞いています。ぜひ、活用したいものです。
 小学校6年生の「月と太陽」の学習でも使えそうです。